

医

30

眼病トラホームノ新治療報告 附、其予防法
塩野 健児郎ノ編

060033-000-5

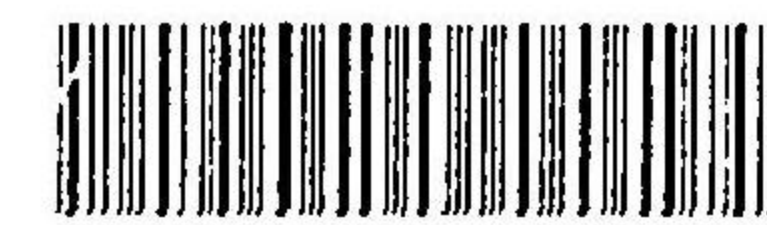
医-30

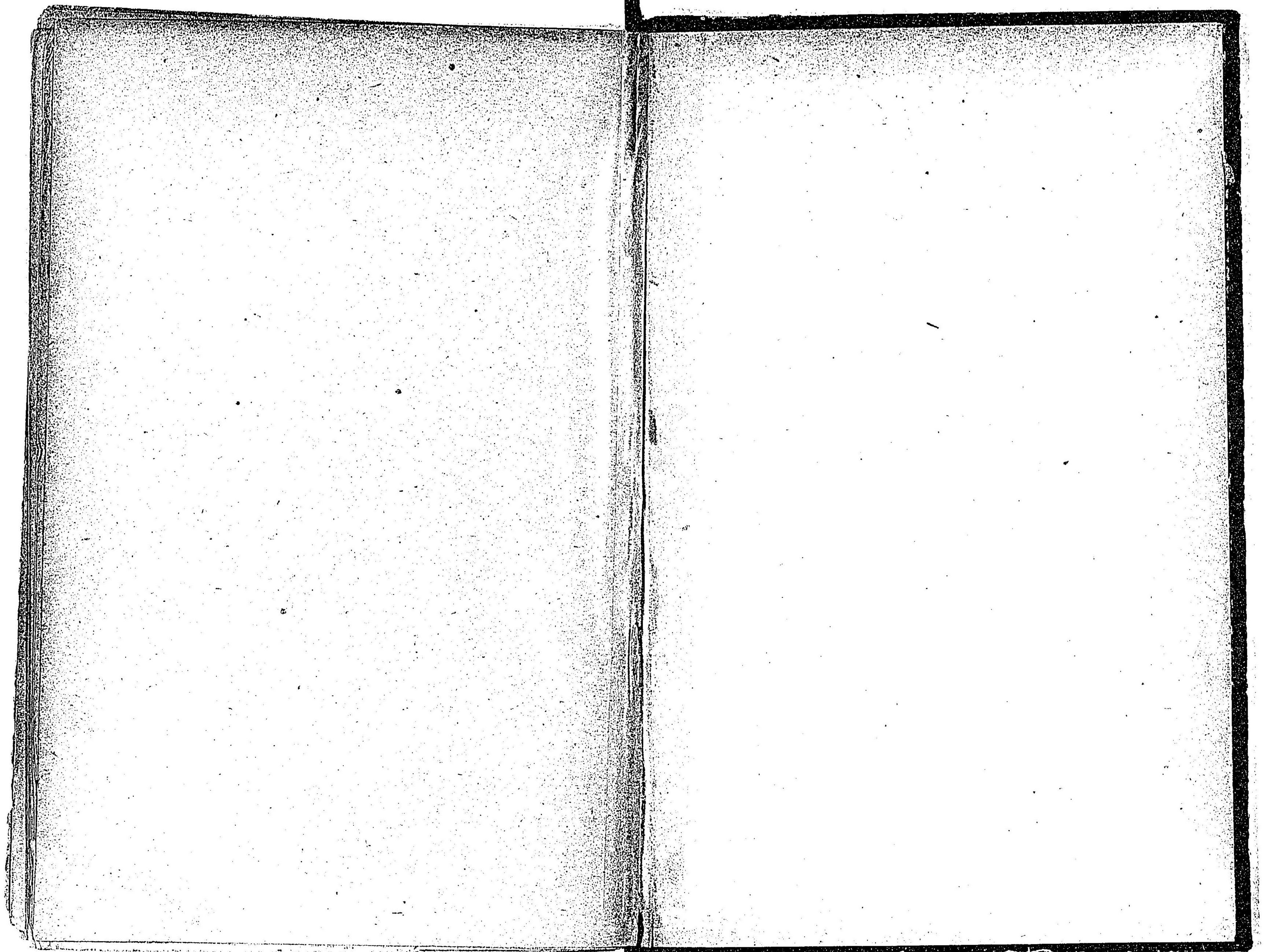
眼病トラホームノ新治療報告 附、其予防法

塩野 健児郎ノ編

M30

CBJ-0097





(眼病)トラホームノ新治療報告附タリ其豫防法

抑々國家ノ盛衰興亡ハ其原因多々ナリト雖凡窮極スルニ殖産ノ關係スル所大ナリ而シテ殖産ハ各人衛生ヲ重シ其身ヲ守ルニアリ實ニ衛生ハ富國強兵ノ基礎ニシテ又衛生中眼目ハ其主ナル者ナリ何トナレバ眼目ハ人生ノ照魔鏡ニシテ其要廣且大真キ社會ハ眼目ノ虹彩ナリ蓋シ社會ハ事物ノ改良進歩ヨリ一身ノ喜怒哀樂ニ至ル迄徧ク流布スルノ團體ニシテ此等ノ起原タル眼目ノ左右スル其多キヲ占ムレバナリ夫レ然リ眼目アリテ后學問ノ幽奧ナル技藝ノ壯麗ナルヲ知リ悲タリ愠タリ憎タリ苦タリ覺リ茲ニ初メテ事物ノ完全ナリ道徳ノ實行ワレ殖産ノ途開ケテ國富ムベキナル家榮ユベキナリ試ニ見ヨ彼佛國ノ王公ニシテ志氣五大洲ヲ併呑シ向フ所一トシテ薩ザルナキ猛虎ノ大英推ナホレオンノ如キ埃及遠征ノ將校士卒ノ眼病トラホームニ罹リ至ル所ニ夥シク傳播シ途ニ之ガ爲メ志氣沮衰シテ敗ヲ取ルニ至リタリト其他我國否世界ニ於テモ此眼病ニ襲ハレ傳來ノ家業ヲ廢シ生計ノ途絶ヘ終ニ各家ノ破滅ヲ來シ或ハ學生ノ空シク目的ヲ失シテ路傍ニ彷徨スルニ至ル等其多キヲ見ル斯ノ如キハ此レ齒人ノ疾病ニ有ズ國家ノ疾病ナリ其病



民賢府ニ於テゲラルグマイル氏ノ統計表

エングランド國	壹万人ニ付テ	九八、八五
デネマルク國	壹万人ニ付テ	七八、八六
ノールウェーゲン	壹万人ニ付テ	壹三、六三
シユウエーデン國	壹万人ニ付テ	八八、〇六
塊	壹万人ニ付テ	五八、五五
ウシガールン國	壹万人ニ付テ	二二、〇一
シユウヰイツ國	壹万人ニ付テ	七八、六一
和蘭國	壹万人ニ付テ	四八、四六
白耳義國	壹万人ニ付テ	八八、一一
佛國	壹万人ニ付テ	八八、三七
スバニヤ國	壹万人ニ付テ	一一、二六
伊太利亞國	壹万人ニ付テ	一〇、一六
北亞米利加	壹万人ニ付テ	五八、二七

亞布利加國住民三十三万人中盲人四百十六人 一万人ニ就テ十二人、五三
 亞細亞洲住民九万五千六百六十五人ニ就テ盲人數不明

○マイル氏ハ男女兩性ニ付テ

一万人ノ住民(ハインエルン王國)ニ就テ 八、一九 男性
 全 八、二三 女性

○グットスタアド氏宗教ニ依リ盲人ノ統計表

耶蘇新教 一万人ニ就テ 八八、二八
 耶蘇舊教 全 八八、四八
 猶太教 全 一一、〇〇
 ナエトヘンデル氏年令ニ依リ盲人表

初生兒ヨリ五年迄 九十三人
 五年ヨリ十年迄 九十八人
 十年ヨリ十五年迄 五十七人
 十五年ヨリ廿年迄 六十五人

二十年ヨリ二十五年迄 三十五人
 二十五年ヨリ三十年迄 四十二人
 三十年ヨリ三十五年迄 二十九人
 三十五年ヨリ四十年迄 十九人
 四十年ヨリ四十五年迄 十一人
 四十五年ヨリ五十年迄 十九人
 五十年ヨリ五十五年迄 八人
 五十五年ヨリ六十年迄 七人
 六十年以上 九人
 合四百八十四人ノ盲人
 獨逸プレスロト府大學眼科教授トクトルモーン氏ノ盲人原病表
 千人ノ盲人ニ就テ
 先天畸形ヨリ盲人 九人
 網膜ニ生スルグリオーマ 六人

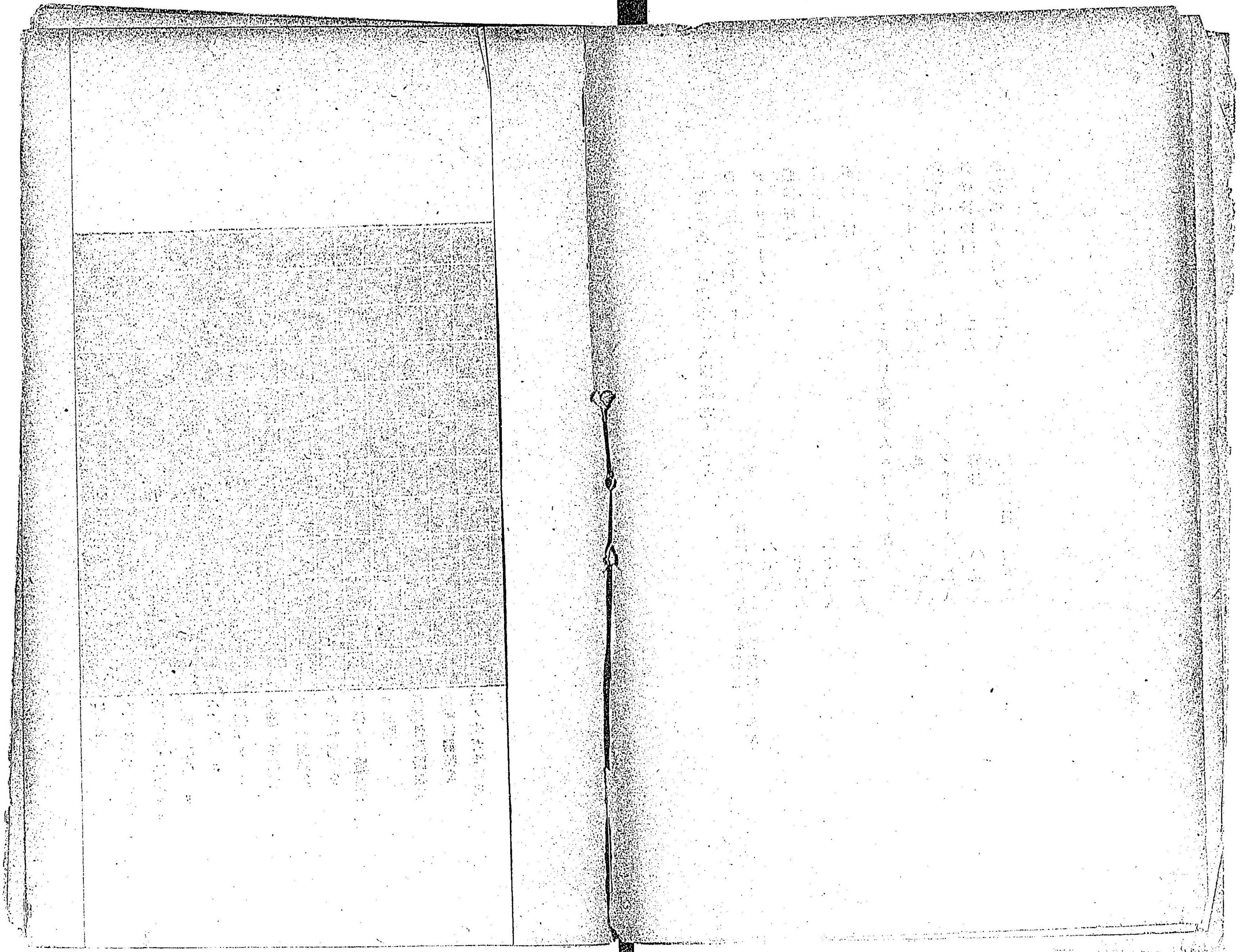
初生兒ブレンデー 百十一人
 結莫病ニ就テ 〇
 角莫病 三十九人
 虹彩及脈絡莫病 二十八人
 交感性眼炎 四人 損傷ナシニ
 腺病 七人
 痲毒 二十六人
 單獨虹彩炎 八人
 單獨脈絡莫病 十二人
 トラホーマ 十七人
 デクテリ 三人
 角莫軟化症 八人
 産后 三人
 眼球損傷 二百四十二人
 共 二百五十三人

交感性眼炎 但損傷后九人
 癩疹 十四人
 痘瘡 三十六人
 猩江熱 四人
 ナブス 九人
 網膜剝離 近視ヨリ來ル者四十六人
 網膜炎ノ爲メノ失明 特發性ノ者二十七人
 八十二人
 近視別症 後鞏莫スタヒローマ 六十三人
 中心鞏莫スタヒローマ 六十三人
 出血症網膜炎 蛋白質性ノモノ二人
 視神經網膜炎 七人
 色素性網膜炎 九人
 脈絡膜兼網膜炎 三人

グライフスワルド大學教授ドクトルシルマル氏ノ盲人統計表
 千八百六十九年ヨリ千八百七十六年間

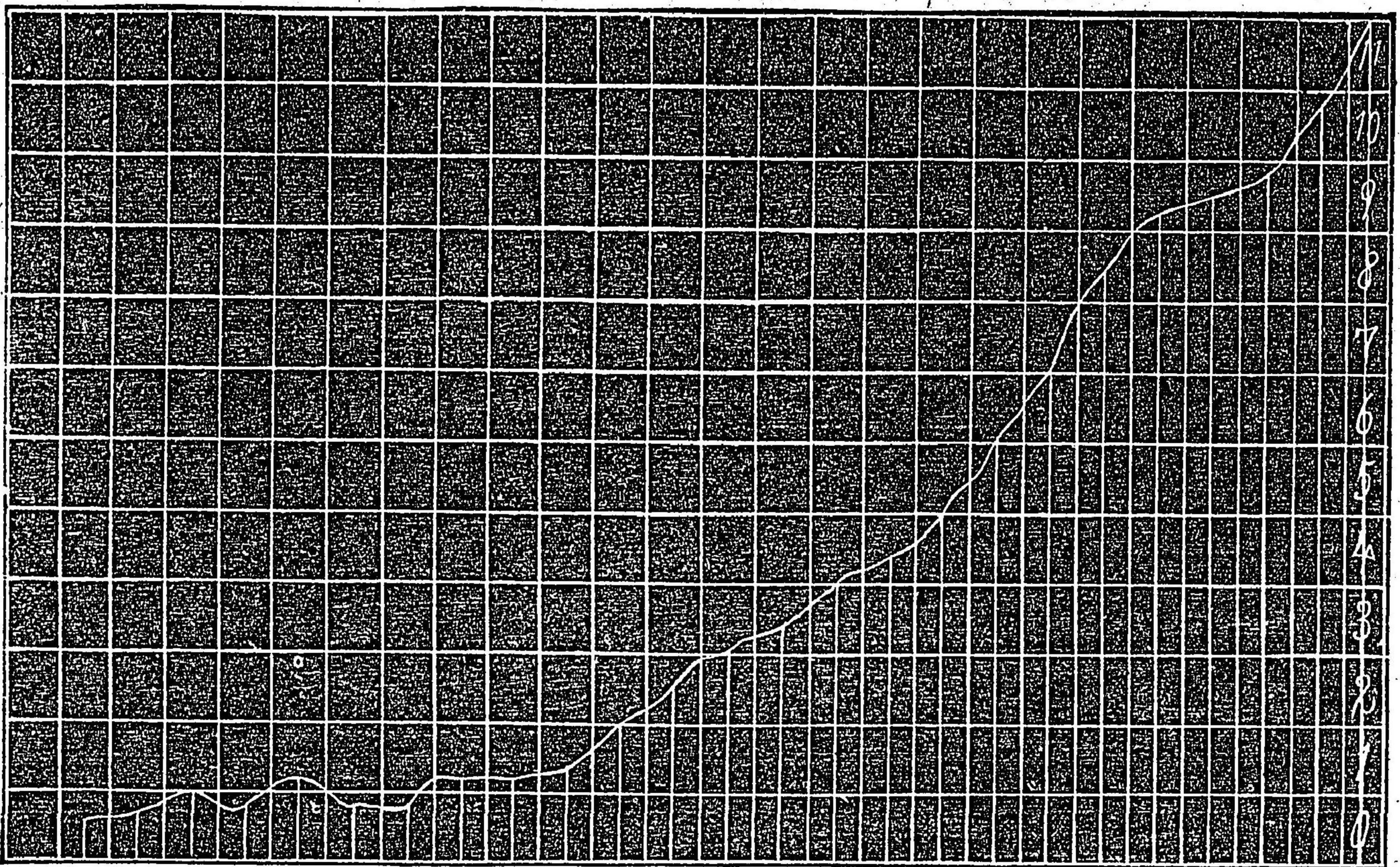
一眼失明二百四十二人兩眼九十七人
 視神經ノアトロヒー 百四十七人内腦病三十八人
 グラウコーム 八十八人
 眼球腫瘍 十四人
 諸手術后 二十二人
 不明ノ盲 三十一人

ステファン氏盲人四十人ニ付テノ表
 トラホーム 十四人 淋毒 十人
 初生兒膿漏眼 七人 グラウコーム 二人
 急性發疹病 二人 梅毒性 〇五人
 直接傷創ノ爲メ 二人 交感性眼炎 四五人



獨逸國民賢大學教授フナシ、ドクトル、ロートムンド氏盲人表

(最大數ヲ十一度トシ最下〇ヨリ初メ盲人ノ原病表ヲ作レリ即チ左ノ如シ)



- 初生兒淋毒性膿漏眼
- トラホーマ少部 膿漏眼ヲ含ム
- 綠内障
- 虹彩、脈絡膜、毛様体炎
- 角膜疾病
- 視神經アトヒ
- 腦疾患ヨリ視神經病
- 網膜病
- 交感性眼炎(外傷性)
- 直接眼ノ外傷ヨリ
- 不明ノ眼病ヨリ
- 脊髓病ヨリ
- 痘瘡ヨリ
- 不適ノ手術后
- 虹彩脈絡膜炎
- 色素性網膜炎
- 諸種ノ脈絡膜病
- 膿漏眼
- 近視性脈絡膜炎
- 視神經網膜炎
- 眼ノ先天性畸形
- 梅毒
- 麻疹
- 腸窒扶斯
- ヂブテリ性結膜炎

東京眼科病院トラホーマ患者年齢別

年 齡	男女ノ別		職業上ノ區別	東京眼科病院トラホーマ患者職業別	
	男	女		男	女
一月以上	0	1	商	27	1
一年以上	1	0	工	8	2
三年以上	0	2	農	4	4
五年以上	2	3	役員	8	5
十一年以上	5	2	教員	5	27
十五年以上	29	12	學生	27	2
廿五年迄	12	12	醫士	2	18
卅五年迄	12	11	無職	18	5
卅五年以上	5	5	産婆	1	8
四十五年以上	5	5			
六十年以上	1	0			
六十一年以上	0	0			

東京眼科病院二十九年度トラホーマ患者月次比例

月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
1	1	2	9	10	9	7	4	5	9	9	5	8

以上年齢別ニ依ル時ハ十六年以上三十五年勞働時期ニ多ク職業別ヲ見レバ我國將來ノ元動力タル學生及商人ニ多ク月次比例ニ就テハ春秋ノ如キ人聞ノ尤モ貴ム可キ時ニ苦ムモノ多キトハトラホーマノ愈々以テ世ニ厭忌セラレ、眼病ナルコトハ智人ヲ待タスシテ知ル可キナリ

同氏トラホーム新舊治療成績比較表
 新舊治療ヲ受ケシ者各百人ト比例シタル者ナリ

種 目	全 治 者	治 療 日 數	半 治 者
新治療患者%	八十七人、五	平均日數四週	十二人、五
舊治療患者%	五十二人、五	平均半ケ年	四十七人、八

(備考半治者治療日數ヲ掲載セザルハ重ニ外來者ニメ家事又公務ノ爲メ自然治療ヲ怠リタル者ナルヲ以テ精確ナル治療日數ヲ記載スルヲ克ハズ)

以上ノ如ク麴町區飯田町四丁目三十一番地東京眼科病院最近ノ各病統計表ハ我日本國一分部ノ統計ナリト雖モ我國全体ニ於テ聊カ眼病ノ種類及ビ盲人ノ依テ來ル原病ノ概畧ヲ推測スルニ足ルナラン

因ニ記ス歐州ニ於テハ膿漏眼ハ盲人ノ主位ヲ占メトラホームハ第二位ノ盲人ナルモ井上ドクトルノ統計表ニ依ル時ハ我國盲人ノ原病ハトラホーム主位ヲ

占ムル第一盲人表ヲ參照スレハ明了ナリトス

右表ヲ見ルモトラホーム患者ノ主位ヲ占ムル斯ノ如シ此儘ニ過サンカ將來社會ハ貴トナク富トナク貧奴トナクトラホームノ蹂躪スル所トナリ國家ハ四分五裂家破レ國傾キ妻ハ飢ト呼ヒ子ハ寒ト叫ブモ將タ救フニ策ナキニ至ラン然ルニ東京眼科病院長ドクトル井上豊太郎氏ハ先ニ獨逸國へ留學スルヤ我國ニ於テモ又トラホームノ漫延スルノ兆アルヲ知り親シク獨佛埃ノ諸大家ヲ歷問シ其病理研究ノ結果遂ニトラホームニ於テ一種ノ微菌ナルヲ窮明シ(師ノ研究ニ因レハミツヘル氏ノミクロコクツケンザツドレル氏ノジプロコクツケン等ノ說アルモ師ノ試檢中何時モミクロコクツケンノ多キニ比シテジプロコクツケンノ希有ナルコトヲ證明セラレタリ)其根本治療ニ付テ拮据勉勵遂ニ各大家ノ新療法ヲ折衷シテ我國人ニ適スル新療法ト之ニ附屬スル器械等ヲ發明シ開院以來該患者ニ就テ舊新治療ヲ實地ニ比較シタルニ新療法即チ氏ノ發明法ノ舊療法ニ勝ルヲ遙ニシテ舊來ノ療法タル硝酸銀點眼法或ハゼエミツヂエ氏ノ硫酸銅焚灼法或ハエラエルスブツシエ氏等ノ電氣燒灼法及昇汞水濕布ニテ顆粒摩擦法或ハロートムンド氏明礬棒ニテ顆粒

擦過法或ハガルゾスキー氏及ザットレル氏等ノ結莫切除法或ハアバアジー氏等ノ顆粒アル粘莫ヲ全身麻醉法ヲ用ヒ或ハコカインヲ注入シ或ハ點滴シテ組織ヲ器械的亂擦或ハ亂切法等又クナツプ氏ノ顆粒壓搾法等姑息療法ノ后癩痕ヲ結デ不治ノ角膜病ヲ起シ遂ニ失明スルノ多キガ如キノ比ニ有ズ井上下トルノ新療法ハ癩痕ノ害少クシテ全治ノ速カナル且ツ全治者ノ多キヲ遠ク舊法ノ及フ所ニ有ズ其成績前表ヲ參照シテ明カナリ

因ニ記ス我々ノ恩師タル井上下トル歐洲留學中ノ修歴ヲ乞ヒ得タレハ其大略ヲ記シテ之ヲ照會スルアラントス

恩師ハ疑キニ單身私費ヲ以テ獨逸國伯林府ニ留學シ后轉シテワイマールサクセシ大公國イエーナー大學ニ入學シ眼科學及臨床實驗ヲ正教授ドクトルワーグマン氏ニ内科學及臨床實驗ヲ正教授スチツチング氏ニ外科學及臨床實驗ヲ正教授ドクトルリーデェル氏ニ學ヒ傍ラ病理解剖ヲ正教授ゲハイムラートミユルレル氏ニ動物學ノ教授ヘッケル氏等ニ學ブ全大學ニ止マルコト二學期後轉シテバイエルン大王国直轄エルランゲン大學ニ入學シ内科學及臨床實驗ヲ正教授フオンドクト

ルストルユンペエル氏ニ外科學及臨床實驗ヲ正教授ドクトルハイネツケ氏ニ傍ラ病理解剖實驗ヲドクトルツエンケル氏ニ眼科學及ヒ臨床實驗手術學及眼科手術實地演習眼鏡學及眼底病實地演習ヲ正教授ドクトルユフエルスブッシュ氏ニ學フコト二學期後再ヒ轉シテバリアリア大王国ノ首府民賢大學ニ入學シ生理學ヲゲハイムラートフオンドクトルフオイト氏解剖學及組織學ヲ正教授ドクトルリユージンゲル氏軍陣外科學ヲ民賢大學講師ドクトルザイデル氏ニ植物學ヲドクトルハルトマン氏ニ病理學及病理解剖實地演習病理組織顯微鏡的實地煉習ヲ正教授オベエルメグチナールラートドクトルボルリッングル氏ニ藥物學ヲドクトルハルトマン氏ニ産科婦人科學及臨床實驗ヲ正教授ゲハイムラートドクトルウインケル氏ニ細菌學實地演習ヲゲハイムラートフオンドクトルベツンコーフル氏ニ眼科學并ニ臨床實驗手術實地煉習眼鏡學并ニ使用法實地演習眼底病診斷學及實地演習ヲ正教授ゲハイムラートフオンドクトルロートマン氏及大學講師ドクトルエルレル氏全講師ドクトルシヨッセル氏等ニ從事シ全大學ニ修學スルコト四學期以上ノ獨逸國諸大學ニ留學スル通計八學期ヲ經テ論文眼ノ水晶體造構ニ就テ其原理ヲ發明シ大

擦過法或ハガルノスキー氏及ザットレル氏等ノ結莫切除法或ハアバアジー氏等ノ顆粒アル粘莫ヲ全身麻醉法ヲ用ヒ或ハコカインヲ注入シ或ハ點滴シテ組織ヲ器械的亂擦或ハ亂切法等又クナツプ氏ノ顆粒壓搾法等姑息療法ノ后癥痕ヲ結テ不治ノ角膜病ヲ起シ遂ニ失明スルノ多キガ如キノ比ニ有ズ井上下トルノ新療法ハ癥痕ノ害少クシテ全治ノ速カナル且ツ全治者ノ多キヲ遠ク舊法ノ及フ所ニ有ズ其成績前表ヲ參照シテ明カナリ

因ニ記ス我々ノ恩師タル井上下トル歐洲留學中ノ修歴ヲ乞ヒ得タレハ其大略ヲ記シテ之ヲ照會スルアラントス

恩師ハ髮キニ單身私費ヲ以テ獨逸國伯林府ニ留學シ后轉シテワイマールサクセ
ン大公國イエーナ―大學ニ入學シ眼科學及臨床實驗ヲ正教授ドクトルワーゲマ
ン氏ニ内科學及臨床實驗ヲ正教授スチツチング氏ニ外科學及臨床實驗ヲ正教授ド
クトルリーデル氏ニ學ヒ傍ヲ病理解剖ヲ正教授ゲハイムラ―トミユルレル氏ニ
動物學ノ教授ヘッケル氏等ニ學ブ全大學ニ止マルコト二學期後轉シテバイエルン
大王國直轄エルランゲン大學ニ入學シ内科學及臨床實驗ヲ正教授フオンドクト

ルストルユンペエル氏ニ外科學及臨床實驗ヲ正教授ドクトルハイテツケ氏ニ傍ヲ病
理解剖實驗ヲドクトルツエンケル氏ニ眼科學及ヒ臨床實驗手術學及眼科手術實
地演習眼鏡學及眼底病實地演習ヲ正教授ドクトルエフェルスブツシユ氏ニ學フコト
二學期後再ヒ轉シテバヴァリア大王國ノ首府民賢大學ニ入學シ生理學ヲゲハイムラ
トトフオンドクトルフオイト氏解剖學及組織學ヲ正教授ドクトルリユージングル
氏軍陣外科學ヲ民賢大學講師トクトルザイデル氏ニ植物學ヲドクトルハルトマン
氏ニ病理學及病理解剖實地演習病理組織顯微鏡的實地煉習ヲ正教授オベエルネデ
チナ―ルラ―トドクトルボルリ―ンゲル氏ニ藥物學ヲドクトルハルトマン氏ニ産
科婦人科學及臨床實驗ヲ正教授ゲハイムラ―トドクトルウインケル氏ニ細菌學實
地演習ヲゲハイムラ―トフオンドクトルベツランコーフェル氏ニ眼科學并ニ臨床實
驗手術實地煉習眼鏡學并ニ使用法實地演習眼底病診斷學及實地演習ヲ正教授ゲ
ハイムラ―トフオンドクトルロ―トマン氏及大學講師トクトルエルレル氏全講
師トクトルシヨッセル氏等ニ從事シ全大學ニ修學スルコト四學期以上ノ獨逸國諸
大學ニ留學スル通計八學期ヲ經テ論文眼ノ水晶體造構ニ就テ其原理ヲ發明シ大

學教授會ヲ通過シ后遂ニ二十八年七月全大學試験委員ロートムンド氏フオイト
 氏リユージンゲル氏ホルリンドル氏アングレル氏チームセン氏タッバイテル氏等諸
 教授ノ口答試験ニ及第シドクトルメードノ學位ヲ受領ス夫ヨリ埃國ウインナー
 府大學眼科教授フックス氏伯林大學眼科教授シユワイゲル氏ライプチヒ大學眼科
 教授ザットレル氏ハルレー大學舊眼科教授グレーフェ氏ウルツブルグ大學眼科教授
 ミツヘエル氏チュービンゲン大學眼科教授ナーゲル氏ハイデルベルグ眼科教授
 レーヘル氏ストラスブルグ大學眼科教授ラクエル氏佛國バリーニテ有名ノ眼科ノ
 大家バナ氏等ノ諸大家ヲ歴問シ眼科患者治療ノ方針及手術等ノ實地ヲ傍觀研究
 シテ二十八年十二月東京ニ歸省シ全月二十八日飯田町四丁目三番地ニ私立東
 京眼科病院ヲ設立シ現今ニテ滿貳ケ年間患者ノ實地治療ニ從事セラレツ、アリ
 ト云々

附

トラホーム衛生豫防法

トラホームノ恐ルベキ前條ヲ參照シテ明カナリ此ニ聊カ愛士同胞ノタメ衛生ノ

要項ヲ付シタルハ同族相憐ムノ情切ナルヨリ出ヅ乞フ幸ニ免セラレヨ抑此病タ
 ルヤ實ニ恐ル可キ觸接傳染病ニシテ其性猛惡微菌ハ常ニ空氣中ニ混和シテ四海
 ニ散布シ眼中微小ノ損傷アルカ或ハ他ノ眼病ニ罹リ居ル際等ハ直ニ其部ニ浸入
 シテ此ニ分裂蕃殖シ初メ上眼險次テ下眼險遂ニ眼球結膜及ビ角膜ニ及ボシ此ニ
 於テ視力ヲ害スルヲ愈々益々甚シク遂ニ失明スルニ至ル恐レテ恐レザルベケン
 ヤ常ニ吾人ノ此ノ敵ヲ防クハ清潔療法ニシテ清潔ハトラホーム微菌ニ對シ最モ
 恐ルベキ武器ニシテ之ニ向テハ寸分モ蕃殖スル能ハズノ途ニ涸死スルニ至ル其
 要項二三ヲ左ニ記載ス

其一最モ簡單ニシテ潛心注意スルニアルハ衆人ノ群居スル兵器學舎工場監獄寄
 席等ノ如キ所ハ空氣不潔以テ媒介ヲナスヲ多キカ故ニ眼性惡シキ人ハ常ニ之
 等ノ所ヲ避クベシ

其二平素眼性惡シキノ人ハ家外風烈シク塵埃等ノ甚シキ所ハ可及的外出ヲ容捨シ
 居リ止ヲ得ザル所ハ甲狀眼鏡ヲ以テ之ヲ防ギ冷水又ハ溢茶等ノ如ギ煮沸セル微
 温湯ヲ以テ眼ヲ時々洗除清潔ニスベシ此法タル俗間最モ行ヒ易ク至ル所ニ其

材量ヲ得ルノ便アリテ其功又大ナリ又該病ニ犯サル、片ハ喫烟飲酒ヲ禁シ工
場等ノ如キ多量ノ石炭ヲ使用シタジニ烟ニ觸ル、ガ如キ職業ヲ避クベシ避ク
克ハサルモノハ勤テ清淨法ヲ勵行ス可シ

其三萬一自家ニ病者ヲ生スルカ又ハ自己犯サル、ノ不幸ニ遭遇セバ先第一其病
者ニ接セズ自己又猥リニ人ニ接セザルヲ要ス又患者ノ使用セル手巾手拭等ハ
必ス之ニ觸レザランヲ要シ又患者ノ使用スル目ヲ拭フ布片ハ晒木綿ニテ一度
煮沸スルガ或ハ熱湯ニテ石鹼ヲ以テ洗除乾燥シタル后五寸位ニ切斷シ三四葉
ヲ備ヘ置テ時々交換シ使用后該布片ハ毎日煮沸若クハ洗除スルヲ要ス
其四既ニ該病ニ罹ルルハ以上ノ諸項ヲ遵行シ夜業讀書風塵等ノ刺戟ヲ避ケ殿ニ
攝生ヲ守リ以テ醫治ヲ乞フベシ

以上ノ諸項ニ從ヒ常々清潔ニナスハ總ラトラホーム否眼病ノ強敵タルコトヲ腦中
ニ刻シテ忘ル、コナクシバ本病ヲ未發ニ防グノミナラズ以テ眼ノ健康ヲ保テ終
身失明ノ禍害ヲ免ガル、コトヲ得ベシ嗚呼社會愛國ノ士輕々寬觀スベキ病ニ非ズ
茲ニ生等ノ恩師ヨリ日常ニ耳ニスル所ヲ述テトラホーム襲撃ノ豫防トナス社會

ノ愛士ヨ徒ニ看過スルナクンハ幸此ニ過ギン

編纂者

山梨縣 鹽野健兒郎

同

大分縣 佐藤 正雄

同

茨城縣 稻垣 三男三

同

山口縣 松本 保吉

同

香島縣 飯野 桃三郎

同

愛知縣 黒田 則次郎

同

福岡縣 一ノ瀬 樅衛

甲 陽 鏡

武

直

振

六 京 市 右 衛 門 兵 衛 部 兵 衛 司 三 番 郎

甲 陽 鏡

武

具

根

本

豐 前 守 家 司 治 部 少 輔 三 番 郎

甲 陽 鏡

武

具

根

本

豐 前 守 家 司 治 部 少 輔 三 番 郎

全

全

具

用

八

日

鏡

符

曲

曲

在

十

二

日

甲

陽

鏡

17
30

